

研究テーマ

心を通わせ、主体的に学び合う子の育成

～人・自然・ものとかかわり合い、よりよく生きる力を育てる道徳教育～

福山市立光小学校

1 研究テーマ設定の理由

平成 16・17 年度広島県道徳教育実践研究指定校として、「思いを伝え合い、人とかかわりを深める道徳教育」をサブテーマに、ことばの教育と道徳の時間との関連を図った。児童は自分の思いを言葉や文章にして表現し、道徳の時間の資料の人物や周囲の人との出会いから、多くの道徳的価値と向き合い、学びを深めてきている。

しかし、自分の思いを発言するだけに止まっていたり、日常生活と関連付けて考えられなかったりするなど、道徳的実践として表れにくいことが明らかになった。また、学年が上がるにつれ、自己効力感等の低下傾向が見られた。また、「いのち」の大切さを知ってはいるものの、どうすることが本当に「いのち」を大切にすることになるのか、つきつめて考え、実践しようとするには至っていない。

そこで、「生命尊重」「自己肯定感」の育成を研究の軸に、家庭や地域社会との連携を図りながら「人・自然・ものとかかわり合う」ことを通して、よりよく生きる力を育てたいと考えた。また、児童の意識を継続させ道徳的実践につなげたいと考え、教科や特別活動、総合的な学習の時間との関連はもちろん、日々の常時活動を大切にするとともに、ライフスキル学習の手法を取り入れた「道徳学習プログラム」の開発に取り組むことにした。


2 研究の特色、特に目指したこととその手立て

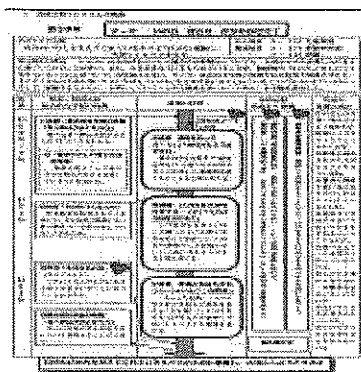
(1) 学習プログラムの開発

① 人・自然・ものとかかわり合いの中で

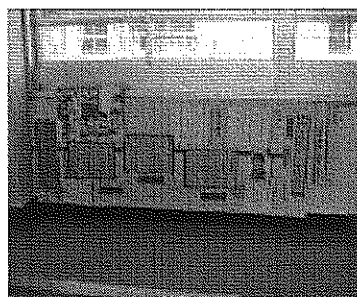
「生命を尊重する心」や「自己肯定感」に関して学年ごとのめざす子ども像の到達目標を明らかにし、教科・特別活動・総合的な学習の時間・常時活動と関連するとともに、家庭・地域と連携を図り、人・自然・ものとの関連を広げるように取組みを進めた。また、意識の流れを継続する手立てとして、学習の流れに沿って学習プログラムを掲示した。さらに、児童用学習プログラム『光っ子シートきらり』を持たせ、その都度記入しながら各自のシートを完成させていく取組みを進めた。

② 健康教育とのかかわりで

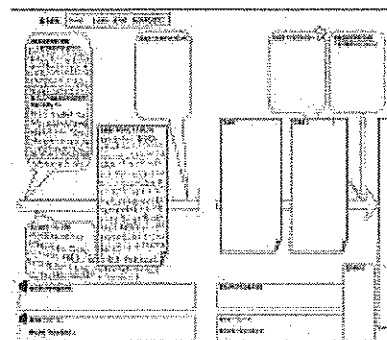
よりよく生きる力のもととなる「心の元気」(健康教育)と関連を図ることにより、児童の自己肯定感を側面から育むことができると考え、ライフスキル学習の手法を取り入れた。ライフスキル学習の手法は、総合的な学習の時間や特別活動、常時活動に取り入れ、構想図の中では  で表した。



<道徳学習プログラムの構想>



<道徳学習プログラムの実践>



<光っ子シートきらり>

(2) 道徳の時間の充実

資料分析をし、授業者の発問や切り返し、学習形態の工夫をすることにより、児童の発言が絡み合えば、より高い道徳性を追究することができると考え、取組みを進めた。

① コーディネーターとして

○ 児童どうしの意見が絡み合うよう、基本発問の精選や資料提示の工夫をし、中心発問でじっくりと考え合い深めることができるよう時間確保を心がけた。また、児童の発言の根拠を丁寧に聴き、切り返し発問や揺さぶり発問のキーワードとして活かすよう留意した。

② ねらいに返る

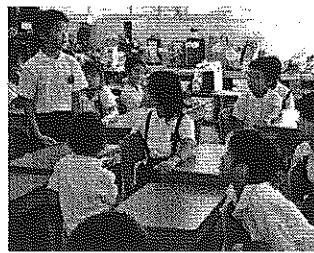
○ 児童の思考の流れに寄り添いながらも常にねらいを意識し、思考の深まりが見えるような板書を心がけた。

③ 書く活動を取り入れる

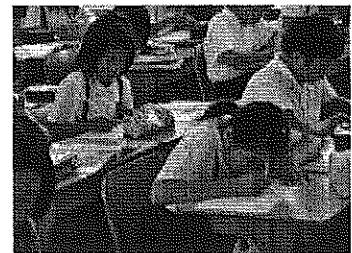
○ 自分の考えをはっきりさせたり自己を見つめたりするために、書く活動を取り入れた。



<意識の深まりが見える板書に>



<聴き合う>



<自己を見つめる>

(3) 児童の心の成長を見取る評価の工夫

授業での児童の発言や様子、日々の行動観察等の記録を蓄積し分析することにより、心の成長を見取りたいと考え、評価の工夫に取り組んだ。

① 道徳の時間では

指導案の本時の展開の後へ「道徳的実践力及び価値の自覚の深まりに関する評価」と「本時の指導過程や指導方法に関する評価」を記述した。ワークシートや「光っ子シートきらり」からは発言に表れない児童の考えや根拠を見取るよう心がけた。これは、児童の自己評価にもなっている。

② 長期的な見取り

児童の行動観察をもとに全職員で時間設定をし、継続的な見取りを行うよう取り組んだ。また、児童・保護者・地域アンケートを実施し、児童の道徳的実践のありようを把握・分析し、指導に生かすよう取組みを進めた。

3 研究の評価

(1) 学習プログラムの開発について

イメージマップや日記等から、考えを温め続けていたり意欲的に取り組もうとしたりする姿が見られる。学習プログラムの流れに沿った掲示や児童用学習プログラム「光っ子シートきらり」の活用により、意識の流れを継続することができたことも有効であったと考えられる。

今後改良を加え、さらに「生命を尊重する心」や「自己肯定感」を高めることのできる「光っ子シートきらり」にしていくとともに、プログラムの概要やねらいを事前に家庭や地域に知らせる等、タイムリーな発信をし、協力体制を確立するための工夫をしていく。

(2) 道徳の時間の充実について

中心発問でじっくり時間をとることにより、多様な意見をもとに、自己を深く見つめることができている。

児童の心に響く時間にするため、コーディネーターとしてのありようをさらに高めていく。

(3) 児童の心の成長を見取る評価の工夫について

授業中の発言やシートを通して、児童の考えや根拠から心の成長を見取ることができている。

今後も全職員で継続的な見取りをし、児童の心のさらなる成長を促し、道徳的実践につながるよう取り組んでいく。